

## 【体育・保健体育科】

### かわして 入れろ！ ～ハンドボール～

ハンドボールの挑戦課題である「ゴールにボールを入れられるか、入れさせないようにできるか」を視点に、単元を通して「どうすればこの運動が楽しくなるか」を工夫する活動を設定しました。子どもは、各々の課題を解決するために、自分で考えをまとめたり、動きを身に付けるために練習をしたり、それを実際のゲームで試したりしました。その中で、気付いたことや考えたことを友達と伝え合いながら、運動に対する考えを拡げ、深めていました。

6年 木田 雅大



### フォーメーションはどう決める？ ～サッカー～

ゴールを奪ったり守ったりするために、4対4のゲームにおける攻防の中で、味方メンバーの特性に応じたフォーメーションを考える活動を設定しました。メンバーの得意・不得意や本人の希望を考慮しながら、シュートに制限のある「ディフェンダー」と、守備に制限のある「アタッカー」という役割を分担しました。「ディフェンダー」と「アタッカー」をそれぞれ何人ずつ、どこに配置すればチームとして効果的に攻防ができるのかを考える姿が見られました。

7年 今田 憲男



## 【音楽科】

### 詩と音楽との関わりを味わおう ～スキーの歌～

「スキーの歌」の歌詞から斜面を下るスピード感や、滑り降りるときの喜びや楽しさを想像し、曲にふさわしい表現を工夫する活動を設定しました。本時では、スキーの爽快感や楽しさを出すために、グループごとに着目したい「音楽を形づくっている要素」を決めて活動しました。本時の終わりには、演奏を聴き合い、感じたことを伝え合うことで、速度や強弱の工夫によって表現が変化することに気付く姿が見られました。

5年 藤原 由佳



### 夏の思い出

楽譜の中の強弱記号に注目をして、曲にふさわしい表現についてグループごとに追究しました。イメージした情景と自分たちの歌唱が結び付いているか試行錯誤する場面では、積極的に録音や録画、相互鑑賞する姿が見られました。また、様々な強弱記号の変化が聴き手に伝わるように表現するためには、呼吸の方法、子音や鼻濁音の発音の工夫が必要であることを共有しました。学習を振り返る過程では、改めて日本歌曲のよさや美しさを確認する姿が見られました。

8年 白地 めぐみ



## 【図画工作・美術科】

「プロジェクションマッピング」で表現しよう！

題材の初めに、プログラミングソフトウェア「ビスケット」を使用して動く模様の作成をする活動を設定しました。本時では、前時までに作成した作品をプロジェクターで空間に写し出し、互いの表現や工夫したところを言葉で説明しました。壁に写し出すだけでなく、天井やカーテン、床に写し出したり、水道の水に写し出してまるで魚が泳いでいるような表現をしたりするなど、それぞれの空間を生かした表現が見られました。

4年 荻内 俊輔



鑑賞 琳派  
～尾形光琳の表現技法について学ぶ～

前時に江戸時代の日本絵画の変遷について学び、琳派の表現技法の特徴について考え、尾形光琳が作品で使用していた技法を授業で試すことを行いました。本時では、たらし込みの技法を試し、体験を行った後に、琳派の作品鑑賞を行う活動を設定しました。岩絵の具を使用し、たらし込みの技法を使用して、植物の模様を再現しました。琳派の画家が表現したかったことや考えたことを自分のイメージを膨らませながら鑑賞していく姿が見られました。

9年 中村 賢太



## 【技術・家庭（技術分野）】

地域産業を活用した水産生物の育成  
～アサリの養殖～

光市の水産業が抱える問題を解決するために、地域の自然環境を活用してアサリの養殖を実施しました。本時では、今年度の養殖の結果から得られたデータや専門家からの情報をもとに、学級ごとにサイズや生存数に差が生じた要因と、その解決方法について考察しました。これらの活動を通して、よりよい育成条件と生育との関わりについて主体的に考える姿が見られました。

8年 安森 智紀



## 学校経営シンポジウムの様子



## 【外国語活動・外国語科】

光じまん！スペシャルLunchを紹介しよう！

Evan先生に光市の食材を使ったスペシャルカレーを提案するために光市の食材を集める買い物をしました。買い物場面における「よりよいコミュニケーションは何か」を考え、自分に必要なコミュニケーションの工夫を試す活動を設定しました。その中で、子どもは、自らの課題を解決するために、聞き返しやリアクション、ジェスチャーの仕方等を試しながら活動に取り組むことができました。

3年 藤井 拓也



地域の魅力発信！

～Evan先生や観光客によりよく伝えよう～

英語科の本質的な課題である「よりよいコミュニケーション」に迫るために、内容・表現・伝え方の工夫を視点に自分でGoalを設定し、地域の魅力について、Q&Aのやり取りで紹介し伝え合う活動を行いました。「ためし」での相手の反応から、よりよい伝え方を考え、ジェスチャー等の非言語的な工夫だけではなく、言い換えや単純化等の言語的な工夫に気付き「つなぎ」で共有しました。振り返りでは、成果や課題、解決方法等の学びや次の課題に気付く姿が見られました。

7年 石川 美佐子



## 【道徳科】

友達っていいな

～『こころはっば』～（東京書籍）

「よりよく生きるとは」という道徳科の本質的な課題に迫るために、教材「こころはっば」を読んだ後に、問いを考える時間を設定しました。子どもは、いくつかの問いの中から「なぜこころはっばの色が変わるのか」という問いを決め、こころはっばの色の変化やその理由について話し合いました。そのような活動を通して、「友達がいること」のよさや友達と一緒に活動することの楽しさに気付くことができました。

1年 池永 真依子



心からの信頼

～『二人の進路選択』～（あかつき教育図書）

友達の思いを尊重したり、互いの幸せを願ったりする心情と態度を育むために、教材「二人の進路選択」を読んだ後に、問いを考える時間を設定しました。子どもは、自分たちの考えた問いの中から「藍子と健はどうしたらよかったのか」という問いを決め、二人の改善点や互いに足りない思いについて話し合いました。そのような活動を通して、友達にとっての自分の存在を振り返り、自分の思いを素直に伝え、互いを尊重し、信頼し合える友情のよさに気付くことができました。

9年 井上 奈枝子



## 【生活科・総合的な学習の時間】

### みんなの場所を みんなで守る ～みんなが つかう まちの しせつ～

2年 徳永 真衣

家族と自分との生活を「にこちゃん（笑顔）」にするための作戦を実行して、思ったことや家族の様子について友達と交流する場を繰り返し設定しました。はじめは、作戦を実行した感想から、もっと「にこちゃん」にするにはどうすればよいのかについて話し合っていました。交流の回数を重ねるうちに、家族が「にこちゃん」だと自分も「にこちゃん」になっていき、そして「にこちゃん」がどんどん続いていくのだということに気付く姿が見られました。



### みんなで一緒に SDGs！！その②

5年 小田 泰督

目的と責任をもって自ら探究を進めていくことを目指しました。最初は、生ごみを自分たちで再利用しようという活動から始まりました。探究が進むにつれ、対象を「自分」から「身の回りの人々」へと広がっていき、対象に合わせて計画・実践する場を設定しました。そうすることで、本時において SDGs の活動を地域に広げていくためにできることを話し合う際、自分の計画を共有し、個々の主張や課題を感じ、全員でよりよい実践になるような発言が見られました。



### 室積地域を支える一員として 自分たちができること

7年 河村 拓哉

子ども自身が探究を高度化・自立化させていくことができるように、地域のためにできることについて、自分たちで計画を立てる話し合いを行い、振り返りながら探究的な学習の過程を繰り返してきました。本時では、これまでの活動を振り返る視点を定める場を設定し、その視点に基づいて話し合いを行いました。これまでの学習を通しての成長と課題に気付き、これからの生活に生かそうとする発言が見られました。



#### ～参会者からのアンケートより～

- ・児童が問いを立てるといふ授業を初めて見た。導入の部分で発問を焦点化することで問いを立てやすくなるということが分かった。自分の授業でも真似してみたい。（1年道徳科）
- ・問いを立てたら、そこに向かうまでの考え方を子どもたちが考えて、教師は問い返しのみをして、子どもたち自身で深めているのがすごいと思った。全員が参加していることに感動した。（4年国語科）
- ・データの活用の単元で、既習の学習をもとに傾向などの説明をお互いに聞き合い、不十分なところを補ったり、評価したりするなど、よりよい説明にしていく過程がとても勉強になった。（7年数学科）
- ・総合の話し合いのあり方について考えることができた。動機や必然性をもたせること、目的意識や相手意識を明確にすること、教員のコーディネートの仕方等改めて考え直したいと思った。（教科部会）
- ・全ての原動力となるのは情熱であること、校長と教頭の関係性の在り方、子どもを中心に据えた学校づくりの姿勢など、学校経営に直結する示唆に富む学びを得ることができた。（シンポジウム）

## 学校経営シンポジウムの様子

令和7年度の教育研究発表大会では、「学校経営シンポジウム」を行いました。  
登壇者は、以下のとおりです。

『主体者意識／不易と流行』	山口県教育庁	審議監	林 謙吾 様
『ゼミ・エクステンション／三次元的思考』	山口大学教職大学院	教授	佐々木 司
『義務教育学校化／人材育成と組織開発』	附属義務教育学校	校長	岡田 淳子

当日は、山口大学教職大学院の院生や参会者、代表児童生徒も参加して、「よりよい学校づくり」について意見交流を行いました。岡田校長からは、「全ての原動力となるのは情熱であり、その情熱は『子どもが中心であること』、そして、『教育そのものが楽しいものであること』に根ざしている」との話がありました。この視点を忘れずに常に教師がビジョンを語り続け、子どもたちを中心に据えた学校づくりを考えるよい機会となりました。

## 令和8年度 授業づくり研修会のお知らせ

令和8年度の授業づくり研修会について御案内します。

### 第1回

令和8年11月13日（金）主に後期課程の授業

### 第2回

令和9年1月28日（木）主に前期課程の授業

初任者研修  
対応

1～9年生の子どもたちが、「めあて」に向かい、エージェンシーを発揮しながら学習する姿を御覧ください。いずれの研修も終日の研修会となります。

詳しい日程や内容は、開催日前に発行される二次案内を御覧ください。皆様の御参加を心よりお待ちしております。

## 問い合わせ先

山口大学教育学部附属光義務教育学校 〒743-0007 山口県光市室積8丁目4-1  
前期課程 TEL(0833)78-0124 FAX(0833)75-1507  
後期課程 TEL(0833)78-0007 FAX(0833)75-1509  
学校 HP Instagram

